

令和 6 年度 学内懸賞論文

「実習経験から考える地域共生の実現」

～A 部門「いま、福祉の学びをどう活かすか」～

東北福祉大学/総合福祉学部/福祉行政学科

21FQ079 平澤 翔陽

「なお本稿では、ChatGPT (OpenAI, 2024) を使用し、文章表現や文法の推敲を行った。生成 AI の提案を参考にしつつ、自身の判断で最終的な文章を仕上げた。」

1. はじめに

私が福祉を学び始めたきっかけは、認知症を発症した祖母の介護を近くで見た経験にある。地域包括支援センターをはじめとする地域の支援機関の働きを目の当たりにし、多様な人々が共生する地域社会を支える福祉の重要性を実感したことが契機となった。そして、大学 4 年間の学びを通じて、福祉が単なる支援技術や制度の知識ではなく、人々の生活を総合的に支える学問であることを理解した。大学 4 年次には社会福祉協議会で 1 か月間の実習を経験した。この実習では、社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカーの方々に同行し地域福祉に関わる様々な調整の現場を見学させて頂いたほか、実際に地域支援計画の立案、困窮者支援、ボランティア活動の調整といった体験をさせて頂き、地域福祉に触れる機会を得た。これらを通じて、理論と実践の間に存在する課題を実感し、福祉を社会に活かすためには何が必要かについて深く考えるきっかけとなった。本論文では、大学での学びや実習経験を基にしながら、「いま、福祉の学びをどう活かすか」というテーマについて考察する。具体的には、現代社会が直面する福祉課題への現場の取り組みを分析するとともに、学びを社会に還元するための提案を示す。また、地域共生社会の実現に向けた展望を論じる。

1. 福祉の学びと意義

2. 1. 福祉の学びについて

「福祉」とは、すべての人々が安心して暮らせる社会を実現するために必要な理論と技術を探求する学問である。その対象は、高齢者、障害者、困窮者といった社会的支援を必要とする人々に限らず、全世代・全地域に及ぶ。例えば、高齢化社会においては、介護支援が重要であるだけでなく、高齢者の生きがいや社会参加を促進する役割も福祉が担う。また、障害者が自立した生活を送るための環境整備や教育、就労支援も福祉の一環である。さらに、困窮者支援においては、単なる物的援助にとどまらず、生活再建を支援する個別的なアプローチが求められる。このように、福祉は幅広い対象を支えるとともに、社会全体の持続可能性を高めるために不可欠な学問である。現代の日本は、少子高齢化や地域格差といった深刻な福祉課題に直面している。我が国の総人口は、令和 4 年 10 月 1 日現在、1 億 2,495 万人となっている。65 歳以上人口は、3,624 万人となり、総人口に占める割合（高齢化率）も 29.0% となった」（内閣府, 2023「令和 5 年版高齢社会白書 1-1-1- (1)」）また、2025 年には団塊の世代がすべて 75 歳以上となり、介護需要が急増すると予測されている。同時に、都市と地方間での福祉サービスの格差も顕著であり、地方における福祉人材の不足が大きな問題となっている。さらに、近年の自然災害やパンデミックは、社会的弱者に特に深刻な影響を

及ぼしており、迅速かつ包括的な支援体制の構築が求められている。今年1月に発生した能登半島地震の際、「福祉関係者等による在宅被災者への戸別訪問が本格化するまでには2カ月以上かかり支援に遅れが生じた」とのことであった。（月間福祉 2024, 6, 46-49.）こうした状況を踏まえ、福祉に対する社会の意識や重要性はますます高まっており、福祉の学びを活かした実践的な解決が急務である。

2.2. 福祉が理論と実践を結び付ける学問である意義

福祉の重要な意義は、理論と実践を結び付ける役割を果たす点にある。例えば、高齢者への支援では、エイジング理論や認知症ケア理論を現場で活用し、個々のニーズに応じた支援を行う。地域福祉においては、地域特有の特性を考慮しながら、住民と協働して課題を解決する仕組みを構築する。このように、福祉は理論的な知見を実践に反映させることで支援の質を高めると同時に、現場での課題を学問的に検討し、解決策を提案する役割を担っている。さらに、福祉の理論と実践の相互作用は、社会福祉をより効果的かつ持続可能なものにするための鍵である。例えば、介護現場でのエビデンスに基づいた支援の導入や、地域住民と協力した災害時の避難所運営など、学問としての福祉が現実の問題解決に大きく貢献している。こうした取り組みを通じて、福祉という学問は現代社会の複雑な課題に対する実践的かつ学術的な解決策を提供する基盤としての役割を果たしているのである。

3. 社会福祉協議会での実習から見た現場の課題と学び

私は大学4年次に、社会福祉協議会で1か月間の実習を経験した。この実習では、地域住民への直接支援だけでなく、困窮者支援やボランティア活動の調整、さらに地域支援計画の立案など、幅広い業務に関与する機会を得た。実習を通じて感じたのは、地域の課題を包括的に捉え、多様な資源を活用して解決を目指す福祉の重要性であった。この経験は、福祉の学びを実践に結びつけるための貴重な学びとなった。特に印象に残っているのは、地域支援計画の作成をデモ体験したことである。計画策定の際には、地域住民や他職種との連携が不可欠であり、住民の声を直接聴くため日頃の地域活動への訪問を通してヒアリングやデータ収集を行うことが重視されていた。課題解決に向けて具体的な施策を提案する際には、論理的思考が求められるだけでなく、実際に実行が可能かという点を考慮した優先順位の決定も必要であった。計画を形にする過程では、限られた資源を効果的に配分する難しさを実感したが、地域のニーズに応じた計画を作る重要性を学んだ。困窮者支援の現場では、生活保護の申請手続きや就労支援プログラムの調整に携わる中で、経済的な困難が社会的孤立や心理的負担と深く結びついている現状を目の当たりにした。支援を行う際には、単に金銭的な支援を提供するだけでなく、対象者が自立できる環境を整えるための支援が重要である。しかし、行政と地域団体の連携不足や、支援制度の複雑さが、必要な支援が行き届かない要因となっていることも課題として実感した。この現実直面し、支援の質を向上させるためには、制度と現場の間に存在するギャップを埋める取り組みが必要だと感じた。また、ボラ

ンティア活動の調整業務では、地域住民の主体的な参加が福祉活動の成功に不可欠であることを学んだ。一方で、ボランティアの高齢化や活動内容の偏りといった問題も見られた。例えば、参加者の多くが高齢者であるために、活動の継続性が課題となっていた事例もあった。これに対し、若年層が参加しやすい仕組みや、住民が気軽に交流できる場を提供することで、地域のつながりを深めることが重要だと考えた。このような取り組みは、地域住民の連帯感を強化し、地域全体で支え合う体制を築くための鍵になると感じた。また、実習を通じて、多職種連携の重要性も強く実感した。社会福祉協議会が行政、医療機関、教育機関と連携し、地域全体の支援体制を構築している現場を目の当たりにした。異なる分野の専門職が協力することで、個別支援だけでなく、地域全体の課題に包括的に対応できる可能性が広がると感じた。多職種連携は、それぞれの専門性を活かしながら、支援の質を向上させるための効果的な手段であると確信した。さらに、支援者としての自己覚知と課題認識の重要性も深く学びを深めることができた。住民の多様なニーズに応えるためには、知識やスキルの習得だけでなく、共感力や柔軟な対応が求められる。一方で、自分の価値観や考え方を振り返り、支援における限界や改善点を冷静に見つめる自己覚知が必要であると感じた。このプロセスを通じて、私は支援者としての自分の役割を再確認し、より良い支援を行うためには常に学び続ける姿勢が大切だと痛感した。1 か月間の実習は、私にとって福祉の学びを深めるとともに、地域福祉の現場における課題と可能性を実感する機会となった。この経験を基に、今後は地域の課題解決に積極的に関わり、学びを社会に還元していきたいと考える。

4. 福祉の学びを地域共生に活かすための具体的な提案

地域共生社会を実現するためには、地域資源の活用とネットワークの構築、さらにはデジタルトランスフォーメーション（DX）を通じた効率的な支援が重要である。地域には、行政、NPO、企業、住民といった多様な資源が存在しており、これらを効果的に連携させる仕組みを整える必要がある。その中心的な役割を果たすべきなのが、社会福祉協議会や行政機関である。これらがハブとして機能し、情報と資源を共有する体制を構築することが不可欠である。具体例として、高齢化が進む宮城県仙台市長命ヶ丘東地区では、「NPO 団体と町内会、行政、社協が協働し、SNS を活用した高齢者の見守りシステム『もみじ LINE（仮称）』という、ご近所やご家族など見守ってほしい方と見守りたい方がペアを組むと、LINE 上で定期的に『元気かどうか』を送り合うことができ、『相談したいことがある』ときは相談先を明示する LINE ボットの開発を行っている事例がある」（まちづくりスポット仙台、もみじ LINE 仮称）これに加えてボランティア活動を通じて住民が主体的に課題解決に関わる仕組みをつくることで、地域全体で持続可能な福祉の基盤を形成できると考えられ、このような住民主体の取り組みは、地域全体の連帯感を強化し、共生社会の基盤を支えるものとなる。さらに、ICT 技術の活用は福祉サービスの効率化と柔軟性の向上にも有効である。例えば、支援対象者のデータを一元管理するシステムを導入することで、多職種間の情報共有を確実に

つ円滑に共有できる。また、スマートフォンを活用した遠隔相談や、AI を用いたニーズ分析を導入することで、支援の迅速化と質の向上が期待できる。ただし、高齢者やデジタルに不慣れな住民には個別の支援を提供することも同時に求められる為、デジタルデバイドを生まない為にも、そういった方向けの勉強会や講習が必要になる。こうした取り組みを成功させるためには、地域住民の積極的な参加が不可欠である。地域でのサロン活動や世代間交流イベントを通じ、住民が主体的に福祉活動に関わることで、地域全体で支え合う体制が強化される。また、福祉人材の育成と支援体制の充実も重要な課題である。現場の支援者のスキル向上や待遇改善はもちろん、将来の福祉を担う若手人材を育成する教育機会の拡充も求められる。福祉の現場における課題は複雑であるが、地域資源の活用、ICT 技術の導入、住民参加の推進といったアプローチを統合的に進めることで、地域共生社会の実現に大きく近づけると考える。

5. おわりに

これまでの4年間、福祉を学ぶ中で、私は地域社会における多様な課題を支える福祉の重要性を深く理解することができた。特に、社会福祉協議会での実習は、講義等の座学で学んだ理論がどのように現場で活かされているのかを知る貴重な機会となった。地域支援計画の立案や困窮者支援、ボランティア活動の調整といった具体的な取り組みに携わる中で、福祉が人々の生活を支えるだけでなく、地域全体をつなぐ力を持つことを実感した。本論文では、福祉の学びをどのように地域社会で活かせるかを考察した。地域資源を最大限に活用し、多職種や住民との連携を強化することで、地域全体が一丸となって支え合える仕組みを構築することが重要だと考えている。また、デジタル技術を活用した効率的な支援や、住民参加型の活動の推進、さらに福祉人材の育成と支援体制の強化が、持続可能な地域共生社会を実現する鍵になると確信している。これから私は、福祉職として現場に立つ中で、今回の学びを業務内での実践に結び付けていきたいと思う。支援を必要とする方々の声に耳を傾け、多職種の専門家や地域住民と協力しながら、柔軟な発想で課題解決に取り組む姿勢を忘れないことが大切だと感じている。「いま、福祉の学びをどう活かすか」という問いに対する答えは、一人ひとりの行動にかかっている。私はこれまでの学びを土台にし、地域に貢献できる福祉職として、誰もが安心して住み続けられる、より良い社会づくりに挑戦していきたい。福祉は、すべての人が安心して暮らせる未来を築くための力であり、その力を信じ、実践していくことが私の目指す道である。(本文 4954 字)

備考資料等

本論文では、生成 AI ツールとして OpenAI の ChatGPT (GPT-4) を以下の目的で使用した。

1. 文章構成の提案: 論文全体の構成やセクションのタイトルに関する提案を受けた。
2. 内容の添削と改善: 作成した文章の文法や表現の修正、論理的整合性の確認に利用。

※使用に際し、AI が生成した内容をそのまま用いるのではなく、得られた提案を基にして内容を精査し、執筆者自身の言葉に再構成している。

- OpenAI. (2024). ChatGPT (GPT-4 version) [Large language model]. Retrieved from <https://openai.com/>

参考文献

- 吉村公夫. (2009). 「『福祉』という言葉が意味する内容について考える」. 『人間文化研究』, 名古屋市立大学大学院人間文化研究科, 12 号, 79～84 ページ.
- 大浦明美. (2017). 「大学で福祉を学ぶ意義を問う -KJ 法による調査研究-」. 『秀明大学紀要』, 14 号, 139～159 ページ.
- 杉本敏夫, 家高将明, 堀清和. (2020). 「現代ソーシャルワーク論: 社会福祉理論と実践をつなぐ『改訂版』」. 晃洋書房, 1～160 ページ.

引用

- 内閣府. (2023). 「令和 5 年版高齢社会白書『全体版』 第 1 章高齢化の状況『第 1 節 1 高齢化の状況』」 https://www.gov-book.or.jp/book/detail.php?product_id=385465
- 立木茂雄. 月間福祉. (2024). 「2024 年の能登半島地震への対応から学ぶ福祉の課題-コンパクト化した社会への水嶺となるか」. 6 月号 46～49 ページ.
- 特定非営利法人まちづくりスポット仙台. 「もみじ LINE『仮称』協働開発|NPO 法人まちづくりスポット仙台」. <https://www.machispo-sendai.com/create.html>